

『さらにまさる神』 (ルカの福音書 11 章 5-13 節) 2022.7.24.

<はじめに> イエスはたとえ話を多く語られています。この箇所は、イエスは「祈りを教えてください」(1)と弟子に求められて、主の祈り(2-4)に続いて語られた、祈りに関するたとえです。主は「あなたがたのうち」(5)、「あなたがたの中で」(11)と身近な話題を取り上げて語られています。祈るとは、人間の最も気高い姿だと言えます。普遍的で誰もが同意できる崇高な願いを「…祈ります」と言うのでしょうか。神に祈る私たちが奮い立たせるために、イエスはこのたとえを話されました。

I 自分をさらけ出す(5-6)

①パンを三つ貸してくれ

旅人の友人を迎え入れたのも真夜中で突然だったのでしょう。しかし、彼に与える食べ物が何もないのです。それで、別の友人宅に急ぎ、『君、パンを三つ貸してくれ』と頼みます。自分の乏しさを隠すことなく彼はさらけ出し、助けを求めています。

②乏しいから求める

誰か相手のために祈ることは尊いことです。人が祈ろうとするのは、得てして自分には何もできないと追い込まれ、無力感を感じることによって、ではないでしょうか。自分の無力・乏しさを認めつつ、それを補い満たし、助けてくださる方になおも期待するのです。

II 面倒をかける(7-10)

①面倒をかけないでくれ(7)

真夜中に突然起こされた友人が「面倒をかけないでくれ」と言うのはもつともです。相手に迷惑がかかると思うと、お願いすることをためらうことはないでしょうか。しかし、彼はあくまで頼み続けます。とうとうその友人は起き上がって、彼に必要な物を与えたのです。

②面倒だからこそ(8)

このたとえで、イエスは面倒をかけてまで求める人を推奨しています。迷惑をかけると人間関係は崩れるかもしれませんが、神との関係はそれ以上です。むしろ神だから面倒なことでも持って来なさい、とイエスは挑戦を投げ掛けています。神様に遠慮は無用です。

③大胆に、しつこく(8-10)

彼が友人に執拗に求めたのはなぜでしょう。迷惑がられても求めたのはどうしてでしょうか。9 節の 3 つの動詞は、マタイ 7:7 脚注では「…続けなさい」とあります。切に必要だから諦めずに求め、心底信頼するが故に大胆に祈り求めます。神様にそうしていますか？

III 良いものを求める(11-13)

①求める子に与える父

たとえは友人関係から父子関係(2)へと戻ります。子どもが必要を父に求め、父はそれを子に与えるのは、ごく普通のことです。たとえ悪い者であっても、愛する子どもには良いものを与えます。ならば完全に十分な天の父、私の神が祈りに応じないはずはありません。

②何を求めているのか

13 節の最後で「聖霊を与えてくださる」で締め括られているのはなぜでしょう。私たちが祈り求めているものは、神様が与えてくださる事物になりがちです。実のところ、天の父が与えたいのは与え主なる神ご自身、その御方との親密な関係を保たせてくださる聖霊です。

<おわりに> イエスには祈りは応えられるのは当たり前で、私たちがどのように祈り求めているかに掛かっているとされます。私たちの神・天の父は、友だち以上、肉親以上の御方です。御前にありのままに進み出て、大胆に求める者をこの方は退けられません。また迷惑なことだからと言って、耳を閉ざされません。必要なものを必ず与えてくださいます。(H.M.)